

## 電子オルガン (ELS-02X) の機能を活かした編曲

— 歌曲の伴奏譜を題材として —

佐田尾 圭 子

### はじめに

声楽、管楽器、弦楽器、打楽器が演奏を行う上で、伴奏楽器ではピアノが主として用いられた楽譜が殆どである。その他ではオーケストラとの共演として、各楽器の「コンチェルト」や声楽では「オペラ」「オペレッタ」などがある。

電子オルガンの元となるパイプオルガンは、紀元前のギリシャ時代に、北アフリカで発見された水圧オルガンと言われている。しかし、さまざまな変遷を続け、電子オルガンとして世に出されたのは、1934年に発売されたハモンドオルガンである。その後1959年に日本楽器（ヤマハ）から誕生した電子オルガン（エレクトーンD-1）であるが、電子楽器といってもオルガンの音色であることにはなら変わりはない。その後打楽器、弦楽器、管楽器を有する楽器としてモデルチェンジを繰り返し、大学での電子オルガン専攻が増えた1980年代後半に出された機種HX-1以降ではオーケストラの表現を再現するための編曲や音色づくりが本格化した。

本稿では、筆者が山口芸術短期大学研究紀要第52巻で発表したピアノ譜の編曲を基に、ピアノ伴奏譜に注目し、声楽を学ぶ上で、最初に取り組むイタリア歌曲の中から、フランチェスコ・パオロ・トスティ（以下トスティ）の作品2曲を題材とし、1曲はピアノ伴奏譜から電子オルガン伴奏へ、2曲目は歌曲のすべてを電子オルガンと他の音源での編曲とする。

### 1. 題材解説

(1) 今回電子オルガン伴奏への編曲として取り上げた楽曲は、トスティ歌曲集1から「さようなら」Addio!である。この曲は19世紀末のイギリスにおいてトスティの歌曲の中で最も人気があった曲の1つであり、「Tosti's Good-Bye!」の名で広く聴衆に知られていた。歌詞については、楽譜にイタリア語と英語の両方を記載されている。

#### (a) イタリア語（歌詞）

Cadon stanche le foglie al suol,  
Bianche strisce serpon sull' onda,  
Lieve nebbia nell'aria fonda,  
Sembran freddi irai del sol.  
Le rondinelle lasciano il nido,  
verso altro lido le trae desio:  
estate, addio! Estate, addio!

Una voce lontan lantan,  
"Odi e impara" sembra gridare,  
"Non diverso dall'oggi è il doman,  
Gioia e duolo, polve ed altare"  
Ogni legame mortal si spezza,  
Copre l'oblio fiele e dolcezza:  
O speme, addio! O speme, addio!

Perchè aspettar tutor, oh! Dolce amor?  
Un sol bacio mi dà, poscia ten va.  
Un altro ancor, un altro ancor.  
Pegno d'eterno fèda te voglio,  
Perchè il tuo cor è fatalmente mio:  
Per sempre addio! Per sempre addio!

(Versione Italiana di F.Rizzetti)

#### (b) 英語（歌詞）

Falling leaf, and fading tree.  
Lines of white in a sullensea  
Shadows rising on you and me,  
Shadows rising on you and me.  
The swallows are making them ready to fly,  
Wheel out on a windy sky  
Goodbye summer, Goodbye.  
Goodbye summer, Goodbye.

Hush, a voice from the faraway  
'Listen and learn it seems to say  
'All the tomorrows shall be as today'dr

All the tomorrows shall be as today  
The cord is frayed the cruse is dry,  
The link must break and the lamp must die.  
Goodbye to hope Goodbye. Goodbye.  
Goodbye to hope Goodbye, Goodbye

Whst are we waiting for? On my heart  
Kiss me straight on the brows and part,  
Again, again, my heart, my heart,  
What are we waiting for, you and I?  
A pleading look, a stifled cry  
Goodbye for ever, Goodbye for ever, Goodbye.  
(G.T.Whyte-Melville)

ハロルド・シンプソンは、1910年に出版した『バ  
ラードの世紀：1810-1910』の中で、「この曲の言  
葉と音楽の間にある完全な調和は、この曲に成功  
をもたらす1つの要因である。」と記している。また、  
かつてウェザリーが、アクセントに関しての  
全く間違いを犯していない数少ない作曲家のなか  
の1人がトスティといっている。

楽曲は、As DurのゆったりとしたAndantinoの  
2拍子で始まるが、アウフタクトからの前奏8小  
節の強迫が4オクターブ離れたasを配置し壮大な  
イメージを表現している。歌が入ってからの16小  
節は、各8小節の繰り返しaa´、次の18小節は、  
前半の9小節は、Ⅵ度の短3和音から入り、3小  
節目はc mollのV<sub>7</sub>からc mollに転調し旋律は下行  
している。5・6小節は静けさを感じさせ、次の3  
小節で後半9小節のAs Durのブリッジとなっ  
ている。16小節+18小節が繰り返され、後半は1拍  
を3連符で表現し、8小節はFsではあるがE Dur  
を感じさせ、Es Durと展開する。そして、最後の  
クライマックスではAs Durに戻り、いよいよ前  
奏、間奏、後奏と伴奏で3度使われている8小節  
の旋律を歌へ持ってきている。特にこの103小節か  
らは、伴奏パートの和音が響きを増しながら繰り  
返される間に、歌のパート「さよなら、永遠に!  
さよなら!」がフォルティッシモでラルガメンテ  
(十分に)で歌われ、Asのアクセントとなってい  
る。フェルマータの後に2/4拍子から3/4拍子  
と変化しながら導かれるように旋律の最後は1オ  
クターブ下のAsで終え、後奏が受け継ぎ3連符と  
ともに締めくくられている。

(2) 2曲目の題材は、電子オルガンと他の音源  
で演奏するための編曲として取り上げたトステ  
イ歌曲集1の「夢」Sognoである。この曲は、  
ステッケッティの詩に音を付けており、詩句  
は、第3音節、第6音節、第9音節に固定され  
た10音節詩行の韻律アクセントによって優しく  
強調されており、6/8拍子の穏やかに揺れる  
リズムに当てられ、広がりとしみじみを感じさせ  
ており、名作の一つである。4小節の前奏から  
歌が入っていくが、最初のフレーズが6/8拍  
子の2拍目から入っている点に注目される。1  
拍目のB<sup>b</sup>の分散和音からB<sup>b</sup>augに変化した分  
散和音に乗せられるかの如く旋律が始まり、次  
の強迫が倚音から入り上行し最初の2小節I -  
II - V<sub>7</sub> - I と一気に駆け上がっており、I aug  
を経由してIIにいくことで、流れが柔らかくそ  
れでいて高揚感を強く感じられる。次の2小節  
では、IIからII<sub>M7</sub> - VでF Durを感じさせ、III  
- VI - V<sub>7</sub> - Iと展開している。8小節の終わりの  
2小節は、II - V<sub>7</sub> - Iと変化はないが、IIに  
入る前は、ここでもI augを経由してIIに入っ  
ている。後半の旋律は、始めの4小節がブリッ  
ジとなり、4小節目のV<sub>7</sub>のrit.で次への期待感  
を与え、次の小節では、Iの安定感と5音から  
3音1音と下が行く広がりとし、各音符の長  
さが、付点四分音符、四分音符、八分音符と割  
り当てられている点について、詩に対する表現  
の繊細さを感じることが出来る。また、前曲と  
は違い、2コーラスのフレーズは繰り返しとな  
っているため、特に大きな変化はないが落ち着  
きを感じる。詞との繋がり、特に最後の2行  
に書かれたロマンザの末尾は魅力的であり、  
「Chiusi gli occhi,ti stesi le braccia...」の詩行は  
長い音価で「ゆっくり」歌われ、rit.で中断し  
た感覚を生み出し、次の詩行「Ma sognavo,e il  
bel sogno svani!」での解決を待ち、後奏へと繋  
がっている。この曲は、前奏・間奏・後奏はす  
べて同じであるため、曲の変化は乏しいが、  
6/8を穏やかに表現するアルペジオと、ハー  
モニニーでの表現(aug使用など)、和音の転回  
型を設定することで支える低音のフレーズを創  
っていることに、曲の魅力があると思われる。

## 2. 歌曲の伴奏における電子オルガン1台のための編曲(譜例1)

トスティの歌曲集は、ピアノ伴奏譜となっている。伴奏は、旋律楽器を合唱の声部に重ねたり声の代用を努めるために導入した。伴奏譜はおそらく総譜がなく、演奏者が幾冊のパートブックを見ながら直ちに演奏するか、パートブックから自分局の「簡略総譜」を作って演奏するか、または、バス声部を基に自分なりの演奏するという方法を探った。17世紀以降の伴奏は、すべてが記譜された鍵盤楽器やハーブとなり、18世紀末以来、教会の外では、高い融通性と効率性のゆえに、ピアノが歌手の伴奏楽器として圧倒的に好まれるようになったのである。

電子オルガンの基となるオルガンは、教会での伴奏に使用されていたが、本研究では、多彩な音色が設定できるELS-02Xでの伴奏譜への編曲を行う。

この曲の編曲については、曲がドラマチックであるため、オーケストラを意識しながらも、広がりを持たせた音色設定にし、木管は使用しなかった。

前奏がアウフタクタから始まり、次の1拍目は外声が4オクターブ離れた主音にアクセントがついていることから、フラット系の調でありながら華やかさを表現するため、フレーズにはトランペットを加え重厚さをだした。8小節の前奏では、2小節目から内声が跳躍の激しい旋律を支えている。ピアノでは奏法として、アルペジオやペダルを使用し表現するが、電子オルガンでは、鍵盤が3段であることから、持続音を設定し左手のカウンターメロディとしてリード・ヴォイス1にホルンの音色を選択しTo Lowerの設定をした。

9小節から歌が入る。ここからの伴奏は、メロディーに沿うようにハーモニーが進行している。伴奏の右手和音は高音がメロディーの音を取っており、ここでは全体を弦楽器で歌を静かに支えるようにした。特に右手には、リード・ボイス1にバイオリン5を設定したことにより、最初の4小節は静かに歌をなぞり、次の4小節は右手をリード・ボイスのみにしたため、クレシェンドとともに旋律を浮かび上がらせている。このベースは、前半は譜面上同じ高さのAsのみとなっているが、音色は変更せずに、高さ(フィート)の変更のみレジストチェンジし発音させている。後半の4小

節はAsからEsへと下行し、メロディーに対しての3度の響きが調和している。17小節目からの8小節は、前半4小節は前フレーズと同じであるため、上下鍵盤は繰り返しとしている。しかし、ベースは前半の2小節目で主音のDsに上がり、4小節目の最後が第5音となっているため、ベースはIの第3音を取り、21小節目の旋律が、1オクターブ跳躍しているため、メロディーを支えている。そして、I-IV-V-Iと定型になっている。歌が入った9小節目から24小節目までの16小節のレジストチェンジについては、基本として、ベースのフィートチェンジとなっている。

25小節からの9小節は、高い音域から下がってくるにつれて音に広がりを持たすために、2小節はベース鍵盤を使用せず、メロディーが下がりきった4小節目からベースを加えた。また、この部分の下鍵盤をストリングスからトレモロ・ストリングスとし、微妙な緊張感を表現した。後半4小節がカデンツとなっているため、ベースは基本型で安定させている。

34小節からの8小節で1節を締めくくっている。ここは、音域の幅が広く取られているため、ベースの音域をフィートの変化で表現している。音の繋げ方については、アクセントが不必要な場合については、音を打鍵しないでタイを使い、キープした状態でレジストチェンジするように設定した。

42小節からの間奏について、ピアノ伴奏は左手に和音を取らず、単音でAs(主音)を2オクターブの音域でアクセントを付け、ハーモニー以上の広がり表現し、右手でメロディと和音を取っている。電子オルガンでは音量のバランス等で前奏との違いを出せることから、特に前奏と変えなかった。メロディーが入った50小節から65小節の16小節も同様である。

66小節からの10小節もフレーズは繰り返しとなっているが、伴奏では1拍目から2拍目の音の設定に、右手が1オクターブ、左手は10度から2オクターブの跳躍となっているため、上・下鍵盤への表現にペダル鍵盤のフィートを様々設定する事で重厚さを出すようにした。

85小節からは前フレーズから転調し伴奏は8分音符の3連符で緊張感と切迫感を表現している。ここからは、レジスト表4のB1を設定し、表1のディレイの数値とする。この3連符は、実際に打鍵するのではなく、演奏では4分音符をスタカ

ートで演奏する。(譜例1、注1参照)

表1  
Pizzicate Strings 1 (ディレイ)

テンポ ディレイ 1	ディレイ タイム	フィード バック レベル	ドライ/ ウェット
	4 th/3	+50	D<W11

しかし、91小節目については、2拍目の最後の和音はVからV<sub>7</sub>と変化しているためディレイを設定しないレジストを挟みこの部分は実際に演奏する。

96小節からのオブリガートを右手での演奏とするため、オブリガートの終わる102小節の2拍目の1音までを、右手をL.K. (下鍵盤)、左手U.K. (上鍵盤)とし、U.K.のレジストをそのままL.H. (左手)で自然に受け継ぐこととした。この部分はピアノ伴奏では右手にオブリガートと3連符を同時に演奏するため、メロディー音を発音する拍には休符となっているが、電子オルガンでは右手と左手に分けているため音を設定した。

103小節からはピアノ伴奏に沿った採譜とし、ベース音を2小節すべてタイで持続し、3連符はオクターブ・ストリングスを設定し広音域で響き渡る演出とした。

110小節からの後奏は、フレーズは前奏や間奏と同じであるが、最後の2小節を除いて3連符のまま表現されている。114、115小節についてはベース音が3連符となっているため、レジスト表4、B9のペダル鍵盤の音色Pizzicate Bass 4'に、表2のディレイの数値を設定した。(譜例1、注2)

表2  
Pizzicate Bass 1 (ディレイ)

テンポ エコー	ディレイ タイム	フィード バック レベル	ドライ/ ウェット
	8 th.	+47	D<W22

この楽曲の編曲譜(譜例1)に記入している注3の記号は、表3、表4のレジスト番号である。  
※レジストレーション例(表3、表4)

### 3. 電子オルガン+他音源のための編曲(譜例2)

この曲も前述の曲と同様に2拍子型である。曲の構成に大きな展開はなく、穏やかで美しい流れをハープの音色で表現し、歌の伴奏ではなく器楽で演奏するための編曲となっている。

前奏から歌に入るタイミングが非常に自然の流れとなっているが、歌の旋律はソロ楽器の設定とし、前奏、間奏、後奏については、広がりのあるアンサンブルの設定とした。

今回は歌曲であることから、メロディーの音色はPAD群の名から、Smooth Pad 1とStrings 14で声を意識している。基本となるレジストレーションは、表5である。

表5  
レジスト表  
1

Upper Keyboard Voice		Lead Voice	
U・K・V・1	U・K・V・2	L・V・1	L・V・2
Strings 14	Smooth Pad 1	Violin 5 & Cello To Lower	Violin 5
Lower Keyboard Voice		Pedal Voice	
L・K・V・1	L・K・V・2	P・V・1	P・V・2
Horn 1 & 4	Strings 1 & 7	Contrabass 7	Violin 5 & Cello

この編曲での1コーラスでは、メロディーを単旋律として印象づけしているため、譜例2の5小節目の2拍から25小節の1拍は、表6のレジストとする。しかし、この音色については、ソロ楽器の設定として、他の音色など可能性を模索していくことで、表現の可能性が広がっていくと思われる。

表6  
レジスト表  
2

Upper Keyboard Voice		Lead Voice	
U・K・V・1	U・K・V・2	L・V・1	L・V・2
		Violin 5 & Cello	Violin 5
Lower Keyboard Voice		Pedal Voice	
L・K・V・1	L・K・V・2	P・V・1	P・V・2
Horn 1 & 4	Strings 1 & 7	Contrabass 7 16'	Violin 5 & Cello 16'

ピアノ伴奏譜は常時16分音符でのアルペジオとなっている。アルペジオをハーブの音源を使用するため、ハーモニー付けを行った。旋律は20小節のフレーズが繰り返されているが、1コーラス目は旋律にハーモニーを付け、ハーブでアルペジオを奏でるオーソドックスなスタイルでまとめた。

2コーラス目については、上鍵盤の主旋律の下に内声を加え、合唱の要素を取り入れた。特に、38小節目は、ハーブ、U.K.L.K.の音型は複雑に絡み、L.K.の左手のメロディーは2小節に渡って独創的な表現となっている。(※譜例2、注4)

38小節からの8小節については、1コーラス目と違った表現で、より聴く人にインパクトとドラマチックさを与えるアレンジとし、高まりを感じさせ、後奏へと導く流れを創った。後奏では、また平穏に戻って前奏・間奏と同様な譜となっているが、最後の小節の1拍目のハーブに、原譜にはない音域のB♭で締め括っている。原譜ではアルペジオが下降して終えているが、夢の中にうっすらと光が差しして終えるイメージを表現した。

#### おわりに

本稿での編曲については、歌曲を題材としたこともあり、柔らかな温かみのある音色を中心に設定した。筆者は、「山口芸術短期大学研究紀要」第38巻において、電子オルガンでの歌曲の伴奏編曲の一考察を寄稿している。ここでの編曲は、オペラの歌曲を題材としたため、オーケストラスコア

ー譜から1台の電子オルガン譜への編曲法は、音の採譜が重要であった。今回はピアノ譜からの編曲であり、譜面からのイメージの設定により、音色や多声部の設定に独創性のある編曲とした。

電子オルガン(ELS-02X)の機能や音色を活かすサウンド創りは多彩であるが、編曲する上ではコンセプトを決めた上でまとめていくことが大切である。本稿では「声」を意識し、電子楽器ならではの音色「Smooth Pad」や「Synth Strings」を設定した。これからの課題としては、本稿では映像を加えることが出来なかった。他音源の編集を含めた研究とコラボレーションなど、新たな可能性を追求していきたい。

#### 参考文献

- 1) 「ニューグロブ世界音楽大事典11」、トステイ、講談社(1994)
- 2) 「ニューグロブ世界音楽大事典14」、伴奏、講談社(1994)
- 3) 「トステイ ある人生 —フランチェスコ・パーオロ・トステイの生涯と作品」、フランチェスコ・サンヴィターレ 著、長神 悟 監修、森田 学 訳、東京堂出版

#### 参考文献

- 4) 「トステイ歌曲集1」、全音楽譜出版社
- 5) 「電子オルガン(ELS-02X)の機能を活かした編曲 —ピアノ曲を題材として—」佐田尾圭子 著、「山口芸術短期大学研究紀要」第52巻

表 3

レジストレーション表 (Addio!)

	Upper Keyboard Voice		Lead Voice		Lower Keyboard Voice		Pedal Voice		
	U・K・V・1	U・K・V・2	L・V・1	L・V・2	L・K・V・1	L・K・V・2	P・V・1	P・V・2	
A	1	Strings 14	Strings 9	Trumpet 1		Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 16'	Strings &Choir 16'
	2	Strings 14	Strings 9	Horn 4 To Lower	Trumpet 1	Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 16'	Strings &Choir 16'
	3	Strings 14	Strings 9	Horn 4 To Lower	Trumpet 1	Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 16'	Strings &Choir 8'
	4	Strings 14	Strings 9	Trumpet 1		Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 16'	Strings &Choir 16'
	5	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 8'	Strings &Winds 8'
	6	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 16'	Strings &Winds 8'
	7	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 8'	Strings &Winds 4'
	8	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 8'	Strings &Winds 8'
	9	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 7	Contrabass 7 8'	Strings &Winds 4'
	10	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Tremolo Strings 2	Strings 13	Contrabass 7 16'	Strings &Winds 8'
	11	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 13	Contrabass 7 16'	Strings &Winds 16'
	12	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 13	Contrabass 7 8'	Strings &Winds 8'
	13	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 13	Contrabass 7 4'	Strings &Winds 2'
	14	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 13	Contrabass 7 8'	Strings &Winds 4'
	15	Strings 14	Strings 9	Violin 5		Strings 9	Strings 13	Contrabass 7 4'	Strings &Winds 4'

表4  
レジストレーション表 (Addio!)

	Upper Keyboard Voice		Lead Voice		Lower Keyboard Voice		Pedal Voice		
	U・K・V・1	U・K・V・2	L・V・1	L・V・2	L・K・V・1	L・K・V・2	P・V・1	P・V・2	
B	1	Pizzicato Strings 1	Smooth Pad 1			Violin 5 & Cello	Strings 13	Cello 1 8'	Smooth Pad 1 8'
	2	Pizzicato Strings 1	Smooth Pad 1			Choir 2 4'	Synth Strings 3 4'	Cello 1 8'	Smooth Pad 1 8'
	3	Pizzicato Strings 1	Smooth Pad 1			Choir 2 4'	Synth Strings 3 4'	Cello 1 8'	Smooth Pad 1 8'
	4	Pizzicato Strings 1	Smooth Pad 1			Violin 5 & Cello	Synth Strings 3	Contrabass 7 8'	Smooth Pad 1 8'
	6	Strings & Winds	Octave Strings 1			Strings & Horn 2	Synth Strings 3	Contrabass 7 8'	Contrabass 2 16'
	7	Strings & Winds	Octave Strings 1			Horn 1 & 4	Synth Strings 3	Contrabass 7 8'	Contrabass 2 16'
	8	Strings & Winds	Octave Strings 1	Trumpet 1		Horn 1 & 4	Synth Strings 3	Contrabass 7 8'	Contrabass 2 16'
	9	Strings & Winds	Octave Strings 1	Trumpet 1		Strings & Horn 2	Synth Strings 3	Contrabass 7 16'	Pizzicato Bass 4'
	11	Strings 1 & 7	Strings & Brass 1	Violin 5		Horn 1 & 4	Strings 13	Contrabass 7 16'	Strings &Winds 8'
	12	Strings 1 & 7	Strings & Brass 1	Violin 5		Horn 1 & 4	Strings 13	Contrabass 7 8'	Strings &Winds 8'
	13	Strings 1 & 7	Strings & Brass 1	Violin 5		Horn 1 & 4	Strings 13	Contrabass 7 16'	Strings &Winds 8'
	14	Strings 1 & 7	Strings & Brass 1	Violin 5		Horn 1 & 4	Strings 13	Contrabass 7 8'	Strings &Winds 4'
	15	Strings 1 & 7	Strings & Brass 1	Violin 5		Horn 1 & 4	Strings 13	Contrabass 7 16'	Strings &Winds 8'
	16	Pizzicato Strings 1	Pizzicato Strings 5	Violin 5		Horn 1 & 4	Strings 13	Cello 1 8'	Violin 5 & Cello 8'

Score  
譜例1

# Addio!

**Andantino**  
※注 3 1

Organ

*pp* *legato assai*

1 2 3 4

TOSTI  
sadao

5 6 7 8 9

Org.

*pp* *legato*



Addio!

Org.

*legato*

20 6 9 6 9 6 10

Org.

*rit.*

*molto legato*

*pp*

11 12 13 14 15

Addio!

Musical score for measures 40-48. The score is written for Organ (Org.) and consists of three staves. The key signature has two flats (B-flat and E-flat). Measure 40 starts with a treble clef and a bass clef. The organ part is marked *pp*. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings like *dim.* and *p*. Measure numbers 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, and 48 are indicated at the top of the staves.

Musical score for measures 49-57. The score is written for Organ (Org.) and consists of three staves. The key signature has two flats (B-flat and E-flat). Measure 49 starts with a treble clef and a bass clef. The organ part is marked *pp*. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings like *pp*. Measure numbers 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, and 57 are indicated at the top of the staves.

Addio!

39

5 6 5 6 9 6 9 6 9 6 10

Org.

69

11 12 11 12 11 12

rit. dim. cresc.

Org.

Addio!

Musical score for Organ, measures 79-15. The score is written in a grand staff with treble and bass clefs. Measure 79 starts with a treble clef and a key signature of two flats. The organ part features a series of chords and melodic lines. Performance markings include a *rit.* (ritardando) over measures 12-15, a *3* (triple) marking over measure 13, and a *cresc.* (crescendo) marking over measure 15. A first ending bracket labeled *※注1* spans measures 13-15. The organ part concludes with a final chord in measure 15.

Musical score for Organ, measures 88-9. The score is written in a grand staff with treble and bass clefs. Measure 88 starts with a treble clef and a key signature of two flats. The organ part features a series of chords and melodic lines. Performance markings include a *2* (second ending) marking over measure 88, a *3* (triple) marking over measure 89, a *4* (quadruple) marking over measure 90, a *3* (triple) marking over measure 91, and a *cresc.* (crescendo) marking over measure 92. The organ part concludes with a final chord in measure 92.

Addio!

97  
Org.  
cresc.  
6  
L. K.  
cresc.  
L. K.

104  
Org.  
rit.  
p  
ff

Addio!

The musical score is written for Organ and Violin. The Organ part is on the left, and the Violin part is on the right. The Organ part features several triplet markings (indicated by a '3' in a box) and a 'dim.' (diminuendo) marking. The Violin part includes dynamic markings: *p*, *pp*, and *ppp*, and a *rit.* (ritardando) marking. The score is divided into measures, with measure numbers 5, 6, and 9 indicated. The Organ part has a treble clef and a bass clef, while the Violin part has a treble clef. The key signature has two flats (B-flat and E-flat).

※注 2

Score  
譜例2

Sogno  
夢

Tosti  
Sadao

♩ = 160

Harp

Organ

6

6

Hp.

Org.

©

Sogno

12 Hp. C7 F7 B $\flat$  D7 Gm D7 Gm C7 F7

12 Org. *p*

18 Hp. B $\flat$  F7 B $\flat$  B $\flat$ 7 E $\flat$  B $\flat$  E $\flat$ 7 B $\flat$

18 Org. *pp* *ppp*





Sogno

36 Hp. C7 B $\flat$  D7 Gm D7 Gm D7 C7 F7

36 Org. *p* *pp*

※注 4

42 Hp. B $\flat$  F B $\flat$  B $\flat$ 7 E $\flat$  E $\flat$  B $\flat$  B $\flat$

42 Org. *p* *pp*

The image displays a musical score for a piece titled "Sogno". The score is arranged in two systems, each with two staves. The top staff of each system is for the piano (Hp.) and the bottom staff is for the organ (Org.). The piano part features a melodic line with eighth and sixteenth notes, while the organ part provides a harmonic accompaniment with chords and moving lines. Chord symbols are placed above the piano staff: F7, Bb, F7, Bb, Cm, F7, Bb, F7, Bb. The organ part includes various chordal textures and melodic fragments. The score is marked with measure numbers 48 and 49. The title "Sogno" is written vertically between the two systems.

